

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

定時制課程の強みを活かした創造的で革新的な教育を基盤に、学び方が異なる生徒一人ひとりに応じた個別最適化された学びと協働的な学びを実現し、生徒の状況に応じた体験的で柔軟な学習を通して、多様な能力と可能性を引き出し、社会的自立と主体的に学び続ける力を育成します。 ・体験的な学習により、発見と感動から学ぶことの喜びと大切さを実感し、生涯にわたり学び続ける「学ぶ力」を育てる学校 ・生徒一人ひとりの自尊心と自己効力感を高め、自分の夢の実現に向かう健全で人間性豊かな生徒を育てる学校 ・定時制の特色を活かした創造的な教育により、多様な生徒が主体的に学び社会的に自立できる人材を育てる学校
--

2 中期的目標

1 学ぶことの喜びを通した学ぶ力の育成 (1) 特色ある総合学科の教育活動を通じて、社会で必要とされる「学ぶ力」の育成をはかる。 ア 生徒一人ひとりの状況に応じた、柔軟な教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、卒業後の社会で困らないために多面的（社会性・学習・健康等）な支援を行う。 イ 体験的な授業を通して、将来のキャリア像の具体化をはかり自己肯定感を高めさせる。 ウ グローバル化に対応するため、関西国際空港に近い立地を活かし、海外研修によるコミュニケーション能力の育成をはかる。 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「この学校は、他の学校にない特色がある」（R5 84% R6 86% R7 84%）を令和 10 年度には 85%以上を維持する。 (2) 創造的な教育により、魅力ある授業をめざす。 ア 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修や、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に取り組み、授業力を向上させる。 イ 地域の教育資源を活用した創造的な教育に挑戦し、生徒の状況に応じた柔軟で質の高い学びを提供する。 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「授業はわかりやすく楽しい」（R5 77% R6 78% R7 84%）を令和 10 年度には 80%以上にする。 2 地域連携、海外交流を活用したキャリア教育の推進 (1) 教育活動全般を通して、基本的生活習慣等の規範意識を育む。 ア 社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身に付ける。 学校に登校できない生徒、学校に来ても授業に入れない生徒に対して、中学校や家庭等と連携することにより指導の充実をはかる。 イ 学校が楽しいと感じることができる教育活動を定期的に開催することで登校意欲を高める。また、中途退学・不登校を未然に防止するため、関係機関との連携や SC、SSW 等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた創造的な教育活動を行う。 ※中途退学する生徒（R5 5名 R6 1名 R7 2名を令和 10 年度までに 6 名以下を維持する。 (2) キャリア教育の推進 ア 探求活動を通じてコミュニケーション力を向上させると共に、ハローワークや地域企業等と連携して、望ましい職業観・勤労観を養い、自己理解を深め、就職内定率 100%維持をめざす。 イ 生徒への進路保障を充実にむけて、地域企業との連携や信頼関係づくりに努める。また、体験的な授業により職業意識や社会的スキルを高める。 ウ 創造的な授業、体験的な学習により、自己実現に必要な自己効力感を育成し、チャレンジ精神を醸成する。 ※生徒向け学校教育自己診断において、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答える生徒（R5 84% R6 86% R7 84%）を令和 10 年度までに 90%以上にする。 (3) 地域連携、海外交流の推進 ア 多様化する生徒への体験的な学習の一環として、複数の海外研修を実施することで、コミュニケーションスキルやチャレンジ精神を養うと共に、異文化理解教育を推進する。 ※海外研修、海外研修企画を年に 2 回以上行い、令和 10 年度には年間 4 回以上にする。 イ 地域の教育資源の開拓をすすめ、多様化する生徒に必要な創造的な授業づくりを推進する。 ※地域の教育資源の開拓に向けた取組みを、令和 10 年度には年間 12 回以上にする。 3 安全で安心な学校づくりの推進 (1) 生徒支援体制 ア 多様な生徒に対して SC・SSW と連携して適切な指導と支援を行い、自立と社会参加に向けて支援を行う。 イ 教育相談体制を充実し、学校生活に不安がある生徒の支援を行う。 ウ あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上に立って人権が尊重される教育を実現する。 エ 学校が教室での学びの場だけではなく、生徒にとって「安心できる」、「楽しい」と感じられる学校をめざす。 ※生徒向け学校教育自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒（R5 71% R6 75% R7 76%）を令和 10 年度までに 80%に引き上げる。 ※生徒向け学校教育自己診断において、「命の大切さについて学ぶ機会がある」と答える生徒（R5 86% R6 92% R7 84%）を令和 10 年度までに 90%に引き上げる。 (2) 安心で安全な学校づくり ア 生徒が安心して授業や実習を受けることができる環境を整備する。 イ 災害時における連絡体制の確立と防犯防災教育の充実 ※生徒向け学校教育自己診断において、学校安全の項目における肯定率（R5 85% R6 86% R7 84%）を令和 10 年度までに 90%に引き上げる。 4 校務の効率化と働き方改革の推進 ア ICT を活用し、会議時間の短縮や職務の効率化をはかる。 イ 行事等の精選により、超過勤務時間の縮減をはかる。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 学ぶことの喜びを通した学ぶ力の育成	(1)「学ぶ力」の育成 ア 柔軟な教材や指導方法の工夫、教員間で生徒の情報を共有	(1) ア・体験的な授業を展開し学習意欲を高め「学ぶ力」を育成する。 ・授業毎にまとめや小テスト等を実施する。 ・ICT 機器を活用し授業のUD 化を推進する。 ・グループワークや調べ学習等を促進する。 ・実習場の環境を整備と構造化をはかる。 ・定期的に生徒の情報交換をする。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）における授業・評価に関する項目の肯定率 85%[84%] ・学校教育自己診断（教員）におけるICT を活用した授業に関する肯定率 100%[100%] ・生徒情報会議の開催 6 回[6 回]	(1)
	イ 体験的な授業を通して、キャリア像の現実化と自己肯定感の向上 ウ 海外研修によるコミュニケーション能力の育成 (2) 創造的な教育による魅力ある授業づくり ア 教員のスキルアップ イ 地域の教育資源を活用した創造的な教育活動	イ・体験的な授業を推進する。 ・探究・課題研究の成果を発表する機会を作る。 ウ・海外研修により、他言語を活用したコミュニケーション活動を体験し能力の育成をはかる。 (2) ア教員スキルの向上をはかる。 ・公開授業週間を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力、指導力の向上に努める。 イ創造的な教育活動を実施し、学ぶ意欲の育成をはかる。	イ・体験的な学習の機会 5 回 ・課題研究発表会 1 回 ウ・コリアタウン等へのフィールドワークへの参加 2 回 [3 回] ・海外研修への参加 1 回 (2) ア・公開授業週間 1 回 [1 回] イ・創造的な取組み実施 4 回	
2 地域連携・海外交流を活用したキャリア教育の推進	(1) 基本的生活習慣の向上 ア 基本的生活習慣の充実 イ 中途退学・不登校防止、生徒の状況に応じた教育活動を推進する (2) キャリア教育の推進 ア 進路支援体制 イ 職業意識の向上 ウ チャレンジ精神の育成 (3) 地域連携、海外交流の推進 ア 複数の海外研修を実施する イ 地域の教育資源の開拓	(1) ア・登下校時の校門指導により生徒とのコミュニケーション機会を増やし、生活規律や学習規律などを通じて基本的習慣を身に付ける。 ・遅刻・欠席した生徒への指導。 イ・不登校生徒への家庭連絡、家庭訪問を強化する。 ・SC や SSW の活用を促進し退学生徒を減少する。 ・居場所事業の活用や体験的な学習の機会を増やすことで、学校に登校する意欲の育成をはかる。 (2) ア・探求や HR を通じて就労意欲を高める。 イ・外部講師等の講話を実施する。 ・地域企業と連携した職場体験・実習等を実施する。 ウ・体験的な学習を通して、自己効力感を育成し、チャレンジ精神を醸成する (3) ア・韓国への海外研修を実施するとともに、他の国への海外研修下見を複数回実施する。 イ・教育資源の開拓をすすめ、多様化する生徒に必要な創造的な授業づくりを推進	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）における「登校・クラスの楽しい」項目の肯定率 70%[76%]「学校へ行くことを楽しい」の肯定率 75%[76%] ・遅刻件数 1400 回以下[1427 回] ・早退件数 140 回以下[67 回] イ ・退学する生徒 6 名以下[2 名] ・学校教育自己診断(生徒)における「学校に行くのが楽しい。」80% [76%] (2) ア・就職内定率の 100%維持 [92.3%] イ・外部講師講演会実施 1 回 [1 回] ・職場体験・実習等参加者数 2 名[20 名] ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率 80% [84%] ウ・体験的な学習の機会 5 回 [6 回] (3) ア・海外研修、海外研修企画を年に 2 回以上[3 回] イ・地域の教育資源の開拓に向けた取組みを年間 5 回以上[6 回]	

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

3 安全で安心な学校づくりの推進	(1)生徒支援体制 ア SC・SSW と連携した適切な指導と支援 イ 教育相談体制 ウ 人権教育 (2)安全で安心な学校づくり ア 授業環境の整備 イ 防犯防災教育	(1) ア・SC・SSW や外部機関と連携をはかりながら、担当分掌が中心的な役割を果たし、生徒支援会議を定期的に開催し、支援を必要とする生徒の情報共有や支援方法を検討する。 イ・生徒が気軽に相談できる教育相談室をめざして環境整備を行う。 ウ・HR や行事等で指導を行い、互いに尊重し合う態度を育成し、いじめ・暴力を許さない環境づくりを行う。 (2) ア・ユニバーサルデザインの観点を取り入れた授業づくりを推進する。 ・教場の安全な環境を整備する。 ・HR 教室等の清掃活動を行い、環境の美化を行う。 イ・HR 等で防犯・防災教育を実施する。 ・生徒・教員における災害時の連絡体制を整備する。	(1) ア・生徒支援会議及びケース会議を毎月実施 ・支援会議 12 回[12 回] ・ケース会議 20 回[20 回] イ・教育相談室来室者 60 名以上[48 人] ・学校教育自己診断における教育相談項目の肯定率（教員）90％[89％]（生徒）85％[87％] ウ・学校教育自己診断（生徒）における人権教育項目の肯定率 85％維持[84％] (2) ア・学校教育自己診断（生徒）におけるわかりやすい授業の肯定率 85％[84％] イ・生徒避難訓練 1 回 [1 回] ・オンライン学校連絡ツールを活用した緊急連絡体制の継続・安否確認訓練 1 回 [1 回]	
4 校務の効率化と働き方改革の推進	校務の効率化 ア ICT による校務の効率化 イ 行事等の精選	ア・ICT やデジタル教材を活用するなど、校務の効率化をはかる。 ・会議資料のペーパーレス化 ・会議時間の短縮 イ・行事を精選し、業務を縮減する。	ア・ICT 活用における業務効率向上 学校教育自己診断における、「コンピュータ等のICT 機器が、授業などで活用されている。」(教員)100％ [100％] ・職員会議 60 分以内 イ・年次休暇取得日数 16 日以上[17.3 日] ・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員をゼロにする。	